
女神の中の幽霊

石織レイ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

女神の中の幽霊

【Nコード】

N9750Y

【作者名】

石織レイ

【あらすじ】

引きこもりを続けていた俺は、半年振りに高校に登校する。教室で授業を受けていると、突然クラスの奴らと一緒に見知らぬ土地に移動していた。美しい草原、襲ってくる魔物、レベルの概念、触れない美少女たち。俺たちは生き残りをかけて争う。

1話

「シュン、おはよう！ 今日も素敵よ」

「ありがとう、アテナ。君は今日もかわいいね」

僕はにつこり笑って言った。心を感じるかすかな虚しさを振り払いながら。

「おい、竹井のやつまたやってるよ。NPC相手に気持ち悪い」

「はは、まあ反抗されなくて楽じゃん」

クラスメイトたちの声が耳に入ってくる。…いや、この世界には学校なんてないんだから「元クラスメイト」、か。

「どうかしましたか？」

アテナが首を横に傾けながら話しかけてきた。赤くなめらかな髪がさらさらと揺れる。白い肌は陶磁器を思わせた。黒のドレスがよく映えている。元の世界ではアニメやゲームの中でしかお目にかかったことのない姿。

胸が高まる。気がつくとも手を伸ばしていた。そして服に手が届く間際。

『あなたは対象に触れる権限を保有していません』

視界に突然映し出される赤い文字。そして僕の手は見えない力で弾き飛ばされる。

「どうかしましたか？」

なにも変わらないアテナの表情に、今日も深い絶望を感じた。

12月4日。

すべてが変わったその日、僕は高校へ半年ぶりに登校していた。2年6組の教室のドアを開ける。音に気づいて何気なくこつちを見た生徒たちが、沈黙した。続いて始まるざわめき声。

僕はドアの席に座っていた男に話しかけた。眼鏡をかけた地味な顔。名前は知らない。

「俺の席、どこ」

「あ、えっと、窓際の一番後ろです」

僕はそれを聞くと礼も言わずにその席に移動し、鞆を置く。隣には茶髪でショートヘアの女が座っていた。色白の顔をちらりとこちらにむけたが、すぐに持っていた文庫本に視線を戻した。当然名前は知らない。

「よお、久しぶり！」

席に座って朝のホームルームが始まるのを待っていると、背の高い男がこつちにきて話しかけてきた。教室のほかのやつらもこつちに注目しているのがわかる。

僕は彼に目をむけた。黒髪の短髪。がっしりとした体つきをしているように見えた。

「ああ、どうも」

「俺のこと、覚えてる？ サッカー部の不知火哲だ。部長になったんだぜ？」

やけになれなれしいと思った。はきはきとした話し方、わりと整った顔だち。女にもてるんだろなあ、と心のなかで呟く。

もちろん彼の名前も僕は知らなかった。2年生になってからちよくちよく学校をサボり、6月の最初に登校したのを最後に登校していなかった。もともと他人に興味はなかったし。

だから、目の前の男を気味悪く思った。

「おい、席につけ」

教師がやってきた。席を立っていた連中は自分の席へと戻る。

「じゃあな」

話しかけてきた男も戻っていく。僕は無言で視線をそらした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9750y/>

女神の中の幽霊

2011年11月29日12時47分発行